

指導資料

社会 第102号



鹿児島県総合教育センター

- 小, 盲・聾・養護学校対象 -

平成17年5月発行

基礎・基本の定着を図る小学校社会科学習指導の充実 - 平成16年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

本県では平成15年度に引き続き、平成16年度「基礎・基本」定着度調査が実施された。この調査は、学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに、各校の課題を明確にし、児童生徒の個に応じたきめ細かな指導法の改善に取り組むなど、基礎・基本の定着を目的として実施されている。

前回の調査では、小学校第4学年、第6学年及び中学校第3学年を対象に、約10%の児童生徒を抽出して実施した。調査内容も、国語、算数、英語及び意識調査に限定されていた。

それに対して今回の調査では、小学校第5学年において国語、社会、算数、理科及び意識調査を、中学校第1学年及び第2学年において国語、社会、算数、理科、英語及び意識調査を、全児童生徒を対象にして実施した。

このことにより、すべての学校が教科・領域などについて自校のデータと比較し、それまでの取組等を検討するなど、指導法の改善に生かすことができるようになった。また、教科内容等が拡充されたことで、これまで以上に総合的に基礎・基本の定着状況をとらえ、より一層きめ細かな指導を実現することも可

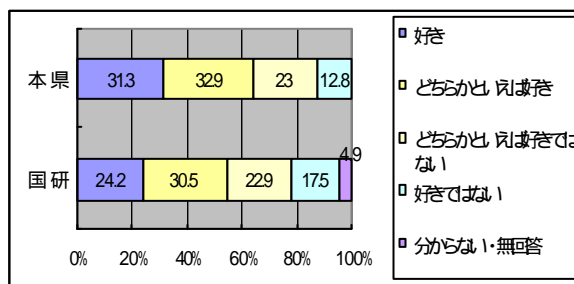
能となった。

そこで、本稿では小学校社会科の定着度調査結果について分析し、そこから基礎・基本の定着を目指す社会科学習指導法の工夫について述べる。

1 意識調査の結果と考察

意識調査は質問紙法により、学校や家庭生活、教科などにおける学習の取組の傾向等について実施された。ここでは、その中から特に社会科として顕著な傾向がみられるものについて、平成15年度に実施された国立教育政策研究所(以下「国研」と記す)の教育課程実施状況(全国約52,000人の小学校第5学年を抽出)の意識調査と比較しながら述べる。

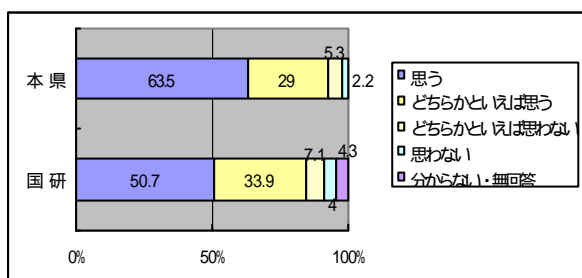
(1) あなたは、社会が好きですか。



本県では、「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた児童が64.2%であり、

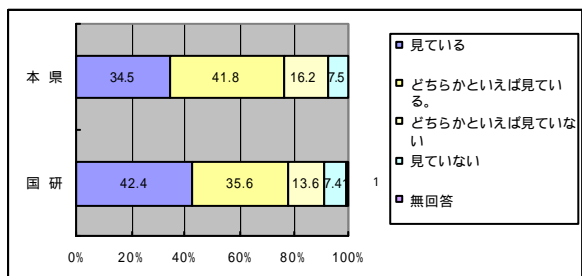
国研の調査よりも9.5ポイントも高い。国研によると、社会科が好きな児童ほど通過率が高いことが分析されており、社会科への興味・関心を高め、社会科好きの児童の育成を図ることは基礎・基本の定着を図る上からも重要である。

(2) あなたは、社会の勉強が大切だと思いますか。



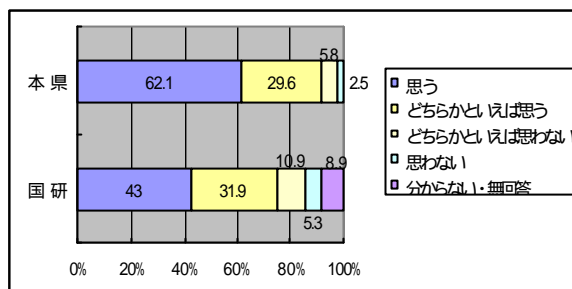
本県の児童は「思う」が全国と比較すると12.8ポイントも高い。ただし、(1)と重ねると、「社会科の勉強は大切だと思う」に比べ、「社会科の勉強が好き」が28.3ポイントも少ないことが課題として挙げられる。社会科好きの児童を増やすには、児童が社会科の授業で好きなこととして挙げている「調査や見学」(39.3%)や「知らなかったことが分かること」(25.7%)などを有効に取り入れた指導の工夫が必要である。

(3) あなたは、世の中の出来事を知るために新聞やニュースを進んで見えていますか。



全国と同様70%以上の児童が「見ている」、「どちらかといえば見ている」と答えている。学習と関連したニュース等を授業の中で取り上げることは、学習内容に興味・関心を持たせることにもつながる。ぜひ積極的に取り組ませたい。

(4) あなたは、社会科の勉強をすれば、ふだんの生活や社会に出てから役立つと思いますか。

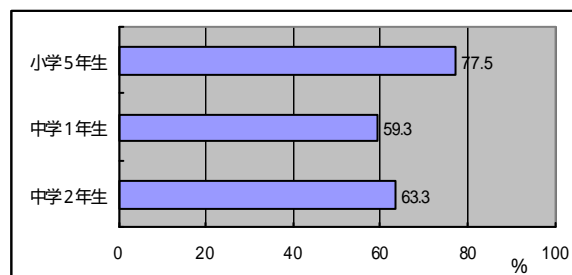


本県の場合、「思う」、「どちらかといえば思う」が91.7%と、全国より16.8ポイント上回り、社会科の勉強が普段の生活や社会に出てから役立つと考えていることが分かる。しかしながら、これが「社会科の勉強が好き」にまではつながっておらず、27.5ポイントの格差が生じている。実生活と関連付けることで興味・関心を高める授業等を工夫する必要がある。

2 定着度調査の結果

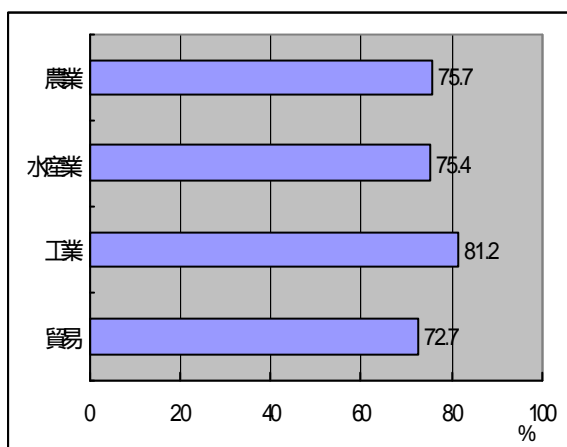
(1) 平均通過率の比較

ア 校種別の平均通過率



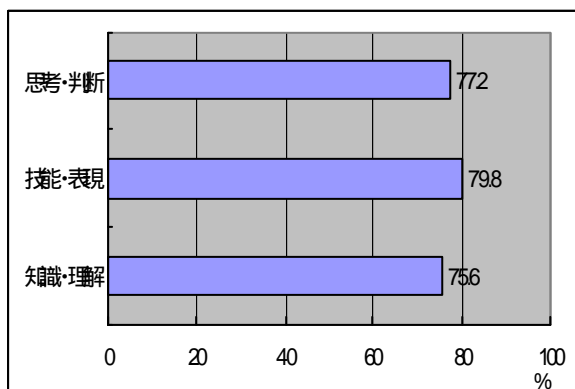
小学校第5学年の平均通過率は77.5%であり、基礎的学習内容がおおむね身に付いていると考える。しかし、中学校第1学年の平均通過率は59.3%と最も低く、18.2ポイントも下回っている。小学校・中学校間でそれぞれが内容の系統性を踏まえた指導の工夫を図るなど、接続を考えた連携が課題であり、小学校では中学校の教育課程や学習内容を把握した上での指導も必要である。

イ 内容・領域別の平均通過率



全体的には、どの内容・領域も7割を超えているが、貿易に関する内容が72.7%と最も低い。この領域では、原材料の輸入先や製品の輸出先、主な輸送経路などについて、地図や貿易に関する資料などと関連付けて具体的に調べる学習を図る必要がある。

ウ 観点別の平均通過率



関心・意欲・態度を除いた観点別の平均通過率はいずれも75%を超えている。この中では、知識・理解が75.6%と一番低いが、地図や統計、その他の基礎的資料を丹念に読み取ったり、内容と関連付けて活用したりする中で、知識の定着を確実に図る指導を工夫する必要がある。

(2) 平均通過率70%未満の問題について全体の平均通過率は77.5%であるが、平均通過率が70%に満たない問題は次の表に示す6問であった。

大問	中小問	出題のねらい	通過率
10	(1)	資料から日本の主な貿易相手国を読み取ることができる。 <技能・表現>	35.2%
8	(1)	自動車の組み立て工場の仕事を理解している。 <知識・理解>	50.4%
2	(1)	米の生産量の多いところを地方区分と関連付けて理解している。 <知識・理解>	59.5%
4	(1)	資料から水あげ量の多い港を読み取ることができる。 <技能・表現>	63.8%
8	(2)	自動車の部品をつくる工場の仕事を理解している。 <知識・理解>	64.1%
10	(2)	日本の貿易の様子について考えることができる。 <思考・判断>	65.5%

最も通過率が低かったのは、10の(1)のであり、35.2%であった。次に通過率が低かったのは8(1)であるが、この問題は平成13年度に国研が行った教育課程実施状況調査問題と同一問題であり、その際の通過率は44.9%と、本県よりも5.5ポイント低かった。

3 定着度調査からとらえる改善の視点

(1) 通過率60%未満の問題について

問題	考えられる理由	改善の視点
10 (1)	アジア，アフリカなど世界の地域名や地理的な位置などを理解していない。 国名を答える問題と誤解した(誤答例としては「台湾」が多い)。	地図帳や地球儀を授業でもっと活用し，中国，韓国，台湾などの国々はアジアの国々であることを地理的に理解させる。 日常生活を通して「～など」の言葉に注意する等の読解力を高めていく必要がある。
8 (1)	組み立て工場と部品工場の根本的な違いを理解していない。 シートやハンドルなどの部品を作ることを組み立てと考えている。	自動車は多くの工場が協力しながら様々な工程で作られていることを理解させる。 細かい部品等は部品工場で作られ，組み立て工場に運ばれていることを理解させる。
2 (1)	生産高の多い円が東北地方に集中していることは分かるが，県と地方の違いや都道府県の位置が理解できていない。	地図帳や統計資料を扱った作業を指導計画に位置付け，各県の名称や位置，資料の見方などを理解させる。 単に覚えさせるのではなく，調べることによって身に付けさせるという学習方法の工夫を図る。

(2) 調査問題全体からとらえた改善の視点

ア 資料活用能力育成の工夫

社会科の学習では資料を基に問題意識をもったり，自分に必要な資料を選択し，その資料を使って調べたり，自

分で資料を作ったりするなどの「資料活用能力」を身に付けさせることが重要である。資料活用能力を育成するためには，日常の授業において計画的に資料を提示，活用させることが必要である。例えば，表題を読む(何を表しているか)，変化を読む(増えているのか，減っているのか)，傾向を読む(いつからいつまでどのように変化しているのか)，比較する(年ごと，種類ごと，地域ごと，国ごと)などの活動の積み重ねを図ることが大切である。

イ 調べ学習のまとめの工夫

通過率の低い問題を見ると，「アジア」，「東北地方」，「組み立て工場」などの知識として必要な語句を問われている問題が目立つ。基礎・基本の定着を図るためには，児童が調べ学習をした後のまとめにおいて，意味付け，関連付けなどを通して，考えさせながら語句とその意味の定着を図る指導の工夫を行うことが大切である。

ウ 読み取る力を高める工夫

問題文を読み，何を問われているのかを適切にとらえ，類推するという読解力を高める工夫が必要である。例えば，大問10の「アジア」を答える問題でも「中国，韓国など()の国々」という文章の流れを把握せず，国々が並んでいることから単純に台湾と答えてしまうことなどが挙げられる。日常の授業の中で，教科書の文章表現や絵地図などを注意深く読み取らせる指導を通して，社会科としての読解力を意

識的に高めさせることが大切である。

4 学習指導の改善策

第5学年の産業分野の学習では、統計資料（グラフ・分布図等）や地図などの資料を読み取り、様々な社会的事象と関連付けたり、自分なりの考えをまとめたり、意見を交流したりするなどの学習を通して、児童に基礎的・基本的事項を押さえさせ、同時に基本的な調べ方を身に付けさせていくことが大切である。本調査問題においてもこのことを踏まえ、すべての問題に資料を位置付けながら、基礎的・基本的な社会的事象等を問う問題構成となっている。

そこで、統計資料を読み取る力や地図活用力の育成、基礎的・基本的事項を確実に定着させる学習指導法改善の在り方などについて述べる。

(1) 統計資料を読み取る力の育成

資料を読み取るためには、「資料のどこをどのように見ればよいか」等の資料を読み取る視点を児童にもたせることが大切である。そこで、教科書等を参考に、第5学年の学習で主に取り扱われるグラフ、写真、地図、分布図などの資料を抜き出し、それぞれの資料を見る際のポイントをまとめた学習カードを作成・活用することで、資料を読み取る基本的な視点を育成することができる。

【例】表1「学び方カード」(p.6)

次ページのような「学び方カード」を児童に配布し、授業で資料が出てきたり、児童が読み取りにつまずいたりしたときなどにいつでも見ることができるように

ノートに張り付けるなどして活用する。

(2) 地図活用力の育成

2, 4, 6, 10の問題はいずれも地図活用の問題であるが、特に2, 10の通過率は低い。児童の地図活用力を高めるためには、地図帳を単に位置を調べる際の道具として使うだけでなく、社会的事象の空間的な側面を地図を通して理解させ、考える力を育てるよう、指導したい。そのためには、教師自身が地図帳を積極的に活用するという姿勢をもち、授業で繰り返し使うことにより、児童に慣れ親しませることが大切である。

例えば、テレビや新聞などで現在話題になっている地名を探すゲームや地図のピースパズルゲームなどを授業の最初に取り入れることで、地図に親しませることができる。また、身近なスーパーマーケット等で調べた産地の情報等を地図で確かめ白地図に書き入れさせたり、米・野菜・魚などを食料ごとに分類し着色作業を行わせたり、調べたことを書き込ませたりするなどして整理させる。そうすることで米の生産量の多い県は東北地方に集中している等の事実が分かり、日本の食料生産の特色もつかめるようになる。

(3) 事実を関連付けて考える学びを取り入れた授業づくり

社会科の学習で学んだ内容を確実に定着させるためには、単なる暗記だけでは身に付ける基礎概念の意味があいまいになり、児童になかなか定着しない。社会科は調べて考えることで自らの概念形成を図る教科でもあるので、児童に事実を

表1 「学び方カード」

< 「学び方」カード >

5年 組 番 名前

1 グラフ

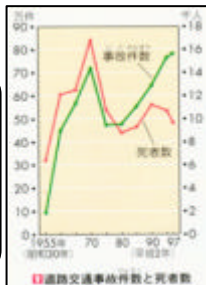
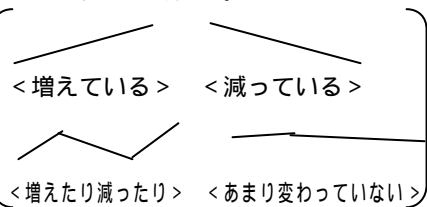
題名、縦軸（縦の目もり）、横軸（横の目もり）の単位は必ずチェックする。

（単位にも注意！）

出典（どこが出したのか）や年度（いつの資料か）ということも注意する。

折れ線グラフ（主に変化を表す）

変化をよく見る。



最近が増えているのか、減っているのかということも気をつけよう。

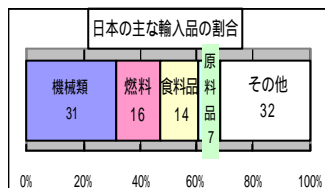
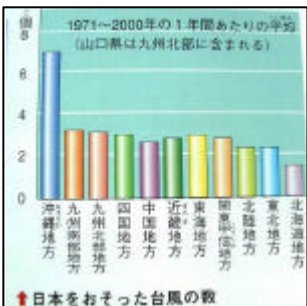
変化の激しいところは、その理由も考えてみよう。

棒グラフ（主に量を比べる）

多いもの（少ないもの）は何か？

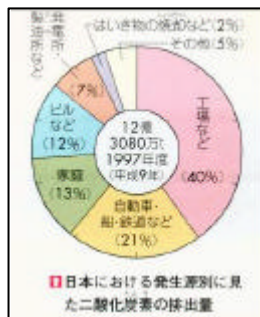
円グラフ・帯グラフ（割合を表す）

多いものは何か。（多い順は？）



グラフを使うときは、変化や多い・少ないの原因となっていることも、これまでに学習したことや私たちの生活をヒントに考えてみよう。

二つの種類のグラフが合わさったグラフもよく出てくるので、いろいろなグラフの見方を合わせて考えよう。



2 写真・絵

何があるか。

何が起きているのか。

- ・ 数にも注意してみよう。
- ・ 文字が見えたらそこも注意してみよう。
- ・ 建物、まわりの様子、景色なども注意しよう。
- ・ 場所や季節も考えてみよう。



人が写ったり描かれたりしているか。

（どんな人か？、何をしているのか？）

3 図

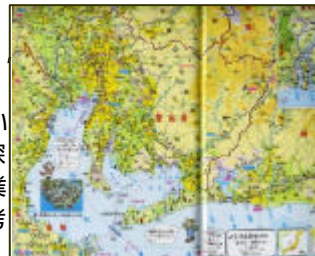
矢印があるときは矢印の向きがどのようなことを意味しているかを考えて、それぞれの関係をつかもう。



4 地図帳

地名を探るときは「さくいん」を見よう。

地図記号やはんれいから、目立つものを探し、その地域の主な産業や土地の使われ方も考えよう。



必要があれば縮尺をつかって、距離を調べたり、まわりの都道府県や市町村も調べたりしよう。

地名や交通の様子から産業の特色などを考えよう。

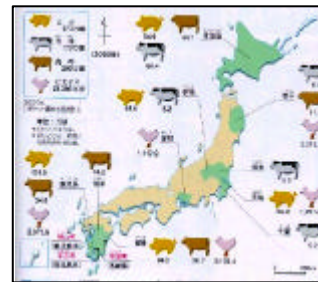
統計のページを見ると地域ごとに産業の特ちょうも分かりやすい。

5 分布図

記号が何を意味しているか。

多いところはどこかなどところか。

なぜ、その場所に多いか（少ないか）理由も考えてみよう。



6 読み物資料

タイトルは何？。

ものの名前や人の名前、数字に注意しよう。

分からない言葉は印をつけて先生や友達に相談しよう。

大切なところに注意して読んで、自分で気づいたり思ったりしたことはメモしておこう。

年表では変化のきっかけになることを探そう。

7 教科書や資料集

何について調べるのかをノートなどに書いておこう。

自分が調べようと考えている情報に関係のあることを見つけよう。

資料を使うときは次のことも気をつけよう。

一つの資料だけでなく、いくつかの資料を比べて、そのちがいや関係について考えよう。

資料から分かったことと分らなかったことをはっきりさせて、発表しよう。

調べたりまとめたりするときに使った資料は、いつのものかどこで集めたものかなどをはっきりさせよう。

調べさせるだけでなく、関連付けを行い考えさせることが大切である。そのためには、段階を踏まえた学習指導が有効であり、このことを、[8]の(1)の問題を参考に考えてみたい。

【事実を知る段階】
(事実情報の獲得)
「組み立て工場」では、消費者のニーズに応じて自動車の形や色を塗り分けたり、エンジンやシートを取り付けたり、ブレーキや排気ガスの検査をするなどして車を生産している。
「部品をつくる工場」では、他の工場と協力しながらシートやハンドルなどの部品をつくっている。



【事実を関連付けて考える段階】
(事実間の関連付けや意味付けの理解)
組み立て工場と多数の部品工場が分担し協力しながら自動車の生産は行われている。
日本で自動車工業が盛んになった要因には、組み立て工場での工夫や組み立て工場を支えている部品工場の発展などがある。



【事実の在り方考える段階】
(事実の社会的意味や意義の理解)
自動車工業では多くの工場が連携をとりながら効率よく生産を行っていることから、それぞれの工場の果たす役割は重要である。

事実を関連付けて考える段階は、ばらばらの知識の素材をまとめたり、社会の見方・考え方の育成を図ったりする上で最も重要な段階である。「自動車の組み立て工場」と「部品工場」とで役割を分担し、協力して自動車を作っている(分業)ことが、工業生産に従事している人

人の工夫であることを自分の言葉でまとめられるようにする。また、この段階で扱う内容は、他の事例にも当てはまる事柄であり、「機械工業」や「IT産業」などの他の事例と比較させ、関連付けを図ることで児童の基礎的・基本的事項の定着を高めることができる。

(4) 読み取る力を高める手だて

問題文的な確かな読み取りや、[8]の(1)のように文章で表された資料を読み取り答える問題等については、日常の授業において読み取る力を高める手だてを継続的に行う必要がある。例えば、次のような手順で指導をすることも考えられる。

教科書を音読する。



本文だけでなく、欄外のコラムや統計資料、写真などのタイトルや解説も読ませる。

キーワードの語句に下線を引く。



キーワードは、教科書の課題に使われている言葉や小見出し、統計資料などのタイトルに使われている言葉から児童に選ばせる。

キーワードを教科書言葉を使って1～2行で説明する(ノート、発表)。

短くまとめさせることで、そのキーワードの特徴を的確に読み取る力を高めさせる。

すべての児童に基礎・基本を定着させていくためには、今回の定着度調査の結果等を参考にして児童一人一人の学習の実現状況を的確に把握し、資料活用能力の育成や社会的事象の意味付け・関連付けなどを図れるよう、授業等を工夫して展開していく必要がある。

(教科教育研修課)